


平成 30 年度 学校版環境 I S O への取組 概要報告

管内	市町村	学校名
菊池	大津町	美咲野小学校

1 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言		<p>美咲野小学校では、大きく分けて「ごみ減量・節電・節水」の3つの宣言項目を設定し、児童集会で、環境美化委員の児童がISO宣言として発表を行った。3つの項目に対して、具体的に説明し、日常の行動へと移しやすいようにした。</p> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>美咲野小学校 学校版 ISO 宣言</b></p> <p><b>ごみ減量</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>燃えるごみとプラごみを分けます。（毎週収集）</li> <li>持ち物に名前を書きます。</li> </ul> <p><b>節電</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な時以外は電気を消します。</li> </ul> <p><b>節水</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歯みがきをする時はコップを使います。</li> </ul> </div>
行動		<p><b>ごみ減量にむけての取り組み</b></p> <p>① ごみの分別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラごみを環境委員会の児童が集める。</li> <li>お弁当給食の空き箱を分別する。</li> </ul> <p>昨年度同様、環境委員会の児童が週に1回プラごみを集めるようにした。こうすることで、分別が確実にできているかを確認することができた。また、各学級にプラごみ専用の入れ物を準備し、プラごみとして出せるもののイラストを描いたポスターを貼り設置した。</p> <p>11月から始まったお弁当給食では、給食委員会が中心になって弁当の空き箱等の分別を呼びかけ、全学年で細かく仕分けして業者に返却するようにした。また、輪ゴムなどは再利用することで、ごみの量を大幅に減らすことができた。</p> <p>ごみを分別することや、できるだけかさを小さくして捨てることなどが、当たり前習慣として身につくにつがある。</p>



## ② 美咲野小をきれいにするゲーム

本校の運動場は、放課後には児童の遊び場的な役割も果たしている。また、社会体育を初め、地域の方が気軽に利用しやすい環境になっている。一方で、年度当初より運動場へのごみのポイ捨てが大きな問題となっていた。児童には、週末に落ちていたゴミを写真に撮るなどして運動場の使い方を指導したが、なかなかゼロにはならなかった。

そこで、学校長主催で「美咲野小をきれいにするゲーム」が全校で実施されることになった。業間の休み時間を利用して、学級ごとに決めた場所のゴミ拾いする。拾ったごみは一か所に集めて展示し、ごみの多さを実感させるようにした。

この活動を通して、児童のごみに対する関心が高まり、放課後に自主的にゴミ拾いをする児童が現れた。この児童2人を冬休み前集会で美咲野大賞として大きく紹介すると、ごみ拾いを頑張る児童が増え、冬休み中にもごみ拾いをして学校へ届けるようになった。そこで、放課後や登下校の時に拾ったごみを捨てるための大きなごみ箱が設置された。

ごみ減量へ向けて、児童の自主的な行動が数多く見られるようになった。

## ③ 落とし物対策

- ・持ち物への記名を呼びかける。
- ・落とし物のお知らせをする。

落とし物は、持ち主が現れなければごみとして捨てられることになる。そこで、落とし物を減らすために、児童集会で、すべての持ち物に記名することを呼びかけた。また、児童が目につきやすい場所に落とし物置き場を設置した。

しかし、落とし物は増える一方なので、環境美化委員会で落とし物を減らすためのアイデアを出し合い、「ミッション落とし物ゼロさくせん」を実施することになった。まず、校内放送で寸劇をし、落とし物をしないための方法を紹介した。また、落とし物箱を委員で毎日チェックするようにし、給食時間に「今日の落とし物」として紹介するようにした。

少しずつではあるが、落とし物に対する関心が高まり、自分の物がないか確認する様子が見られるようになった。

## 節電にむけての取組

休み時間や使っていない時間は電気を消すよう、環境委員会

		<p>の子ども達が、各学級へ行き声かけを行っている。そのため、児童の節電への意識も高く、休み時間等の電気の消し忘れはほとんど見られない。</p> <p><b>節水にむけての取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童集会で節水についての発表を行う。</li> <li>・手洗い場にポスターを貼り、意識を高める。</li> </ul> <p>昨年度石けんで手を洗うとき、水を止めた場合と水を流したままの場合でどのくらい違うか委員会で実験を行った。その結果を踏まえ、今年度は節水のアイデアとしてコップを使用して歯みがきをすることを呼びかけた。</p> <p>実験の様子を示したポスターが昨年度より手洗い場に掲示されており、毎日の手洗いや歯みがきで意識して水を大切に使う様子が見られる。</p>
<p>記録</p>	  	<p><b>「美咲野小学校をきれにするゲーム」結果</b></p> <p>○もえるゴミ (約 1000 g) 紙くず：多数 靴下 ロープ：多数 マスク タバコの吸い殻約 20 本 縄跳び</p> <p>○ぶらゴミ (約 250 g) 飴のゴミ：約 80 個 お菓子の袋：約 10 個</p> <p>○不燃物 (約 230 g) パイプ 紙くず プルトップ バッジ</p> <p>○その他 ペットボトル：4 本 空き缶：8 個 スプレー缶：1 個</p> <p>ゲームの実施後すぐに、拾ったごみの量は掲示され、学校長から職員・児童に伝えられた。また、教育の日（月に一度の学校参観日）には、保護者にも見ていただいた。</p> <p>数字で表すことで、ゴミの量を実感することができた。</p> <p><b>落とし物の掲示</b></p> <p>冬休み後、落とし物名を毎日表にまとめて掲示することにした。どんな落とし物があるか、より明確に確認できるようになった。まだ始めたばかりの取組であるが、文字にすることで、その量の多さも実感できると考える。</p> <p>「物を大切にする」ことへの意識化へつなげていきたい。</p>

見直し	<p>○プラごみの分別でどの程度ごみの減量につながっているか、ごみの計量を行い、ごみが少ない学級を表彰する等、ごみを減らす取り組みを考えていきたい。</p> <p>○学校全体でゴミの減量に関わる取組を行うことができた。一方で、環境宣言の周知徹底は不十分であったと思われる。委員会を中心に、環境宣言に関わる取組を数多く実施することで、さらに「環境にやさしい」生活を進めていく必要がある。</p>
-----	--

## 2 成果と課題

成 果	課 題
<p>ごみの減量については、ゴミの量を見える形で示すことで、ごみ問題の大きさを実感させることができた。また、弁当箱の処理の仕方やプラごみの分別の仕方を分かりやすく絵や写真で示したりすることで、学校全体でしっかりと取り組むことができた。さらに、ごみ拾いを頑張った児童を紹介することで、ごみを減らすことへの関心や意欲が高まった。</p> <p>児童の自主的な活動が数多く見られるようになったことが、最も大きな成果である。</p>	<p>今年度は、節電、節水については、呼びかけるだけにとどまり、具体的な対策・取組の実施ができなかった。結果として、今年度は電気・水の使用量の増加が見られた。節電や節水のための取組が少なかった。</p> <p>また、落し物については、たくさんの落し物があることを児童に理解させることはできたが、物を大切にすることへの意識の高まりとしては不十分であった。</p> <p>今後、落し物ゼロ、節電、節水につながる取組の活性化が必要である。</p>